

吉野紙漉きと大宇陀の薬膳料理を満喫!!

戸田 健治

今回は参加者が多く、友の会旅行としては初めてバス2台となる大盛況の企画となった。

4月29日(火)朝、歴博前を出発。最初に訪れたのは吉野紙漉きの福西さん宅。家族一家4人の作業で、面白かったのはご主人が解説専門で、無口な奥さんが紙を漉く主役だったこと。それにしても数々の工程を経、大変な手間をかけて出来上がった吉野紙は昔時、貴重な物であった。現在、使い捨てられる紙は嘆き悲しんでいる。

次は、大宇陀の大願寺で待望の薬膳料理だ。前菜は見た目も美しく色鮮やかで、少しずつであったが楽しく味わえた。胡麻豆腐は吉野葛での出来立てのお餅の感触で、酢の物、白和えにも薬草が使われていて珍しく、味わい深い。アロエの梅肉和えやツルムラサキの酢味噌、クコの実など余り聞いたことのない変わった料理がすばらしかった。本吉野葛を使った刺身や朝鮮人参の天麩羅など、普段いただけない食材での美味しい献立を堪能したが、最後の黒米ご飯も一度も味わったことのないものだった。

本格的な薬膳料理のご馳走をいただき、至福のひと時を過ごした後、万葉の阿騎野旧街道を散策し、伝統的建造物群保存地区に指定されている漢方薬の古里、大宇陀の街並みを楽しみ、予定どおり帰阪した。

会員のなかの俳人のお二人の句を頂く。

中川金太郎

紙漉きの部屋仄暗し桐の花
鶯や薬園わたる風やさし
旧道の樽の看板燕来る

市ノ瀬けい子

春光に眩しき和紙の干されおり
薬膳の目で味わうや昭和の日
名札読み巡る薬園春の蝶



紙漉きを説明いただく福西さん



大願寺の薬膳料理

西国街道を歩く 第3回 門戸厄神～伊丹市役所

今井 捷子

3月20日(木)の昼過ぎ、阪急門戸厄神駅を出発。最初に道標を見る。「すく尼崎 大坂 左伊丹 池田 京道」。今、どこにいるのだろう。細い道の両側に新築住宅が続く。道が曲がっていなければ新築分譲地の見学会みたい。旧街道から外れ、土手を上って明治42年に完成した甲武橋を渡る。電車の車窓からはあつという間の武庫川なのに、強風を受けてなかなか進むことができない。その間、新幹線が何本も通り過ぎた。

西宮から尼崎へ渡り終わって河川敷を歩く。河の向こうには六甲山系を背景に甲山が個性的な姿を描いている。街道を往来した人びとが見たのと同じ、時間を越えた風景に見入った。堀の渡し。渡り終えた人びと、これから渡る人びとの賑わいを見ていたであろう常夜灯だけが残っている。

石に彫られた道標、石仏、塚が道沿いに据えられている。状態はさまざまだが、いつまでもあるべき所にはほしい。そのひとつ高師直供養塔。主人足利尊氏と弟直義との争いの犠牲となり武庫川で戦死。その後、忠臣蔵で復活し、塩谷判官をいじめ、赤穂浪士に打ち取られる。二度の不運に同情も二倍、立派な塚を拝み少し心が和らいた。

昆陽寺に着く。圧倒されるような朱塗りの山門。今日の見学地の50%のポリウム、源としたたずまいの本堂と行基堂、広い寺域に四国八十八所が勧請され、信仰の形態に触れることもできた。昆陽宿は小規模ながら本陣を備えた宿場町。道の両側に土蔵や年代物の木が残る。同口より奥行きのある広い敷地に宿屋、商店、有力者の屋敷があったのかしらと、想像を巡らせた。それにしても昆陽という地名の由来は何だろうと参加者同士、話題になった。説明板にいくつかの説が列挙され、定説はない旨が記されていた。最後は首切地蔵である。恐る恐る近づいて見る。切れたというより、頭をのせたようで、悲愴な感じはなかった。

お彼岸の中日、桃や梅の花に恵まれ、季節も楽しめる半日だった。



伊丹市の昆陽寺(撮影:今井捷子さん)

西国街道を歩く 第4回 伊丹市役所～瀬川宿

齊藤 晴美

以前に九州方面から大阪空港に降り立ったときのことで。空港がもう目の前と言うときに、大きな池が見えました。「あつ! 昆陽池だ」と思ったのも束の間。まもなく、少し小さめの池が見えました。その周囲には学校らしき建造物。それが今回訪れた今池でした。学校らしき建造物は伊丹市役所でした。この池は、伝行基築造との由です。行基さんといえば、諸国行脚されたらしく、各地にその足跡が残されています。

6月14日(土)、今回の「西国街道を歩く」の見どころには次のようなところがありました。

① 伝和泉式部の墓

18世紀に農民が畑を耕作中に見つけ出した五輪塔の一部です。耕作中に「…うんぬん…」という話しは世界各地にあります。これもそのひとつ。和泉式部については、平安中期の歌人。和泉守橘道貞の妻であったことから、このような名前で呼ばれるようになりました。二人の親王の寵愛を受け、後に藤原保昌と再婚。情熱的な一生を送り、恋愛歌人として名を馳せる。和泉式部日記が有名。

② 浄源寺の大銀杏

この巨木を見上げると、はるか目の上に桐やムクノキが寄生しています。鳥の運んできた種が僅かな隙間(ほんの少しの土)に芽生え根を下ろしたのでしょう。生命力の強さに驚かされます。ちなみに、銀杏は老樹巨木としてしばしば天然記念物に指定されます。ここの銀杏も伊丹市の天然記念物に指定されています。

③ 弁慶の泉

源義経が兄頼朝に四国へ追放された際に、義経・弁慶主従がこの地を通り、この水を飲んだという伝説が残されています。義経が奥州へ逃れる話は有名ですが(安宅の関での弁慶の勳進帳等)、四国への追放は初めて知りました。

このほかにも十二神社の境内には、大阪みどりのトラストによって種々の樹木が植栽されて、鎮守の森が形成されていました。緑に囲まれて、歩き疲れた身体を癒すことができ、また会員との談話も楽しく、親睦をはかることができました。今回も先生の丁寧な説明を受け、楽しく学習した事を嬉しく思います。



伊丹市の竹塚の紫竹(撮影:近藤信子さん)



山辺の道周辺の古墳と資料館を訪ねる 第1回

大阪歴史博物館 学芸員 文珠 省三

山辺の道は、大神神社の鎮座する三輪山の西南麓から龍王山などの麓の西を通り奈良山丘陵にいたる古道です。古事記の記事の中に行燈山古墳(アンドンヤマ・崇神天皇陵)あるいは淡谷向山古墳(シブタニムカイヤマ・景行天皇陵)を示すと考えられる山邊勾岡上陵(ヤマノベノミチノマガリノオカノエノミササギ)という記述があることから、8世紀初には道として成り立っていたと考えられ、また、西側を通っている上ッ道(計画道路)などと比べるとその通じている場所等から自然発生的な道と考えられます。

さて、この道については万葉歌人として著名な柿本人麻呂が幾つかの歌を詠んでいることでも知られていて、それらの歌を中心とした研究から山辺の道沿いにある巻向の地に人麻呂の妻が住んでいたとする説もあります。そして、そこへ通う人麻呂が山辺の道沿いに歩きながら妻を思い、あるいはその自然の情景を詠んだ歌があり、「巻向の 檜原もいまだ 雲居ねば 子松の末ゆ 沫雪流がる」(巻10-2314 巻向の檜原にはまだ雲がかかっていないというのに、小松の梢から泡雪が流れるようにふってくる)という冬雑歌や「子らが手を 巻向山に 春去れば 木の葉渡きて 霞たなびく」(巻10-1815 春も帰ったので巻向山にも木の葉を圧するように深い霧がかかっている)という春雑歌があります。山辺の道を歩いているとこのような情景には今でも出会うことができます。

今回の見学会は、少し西に外れましたが、JR桜井線巻向駅に集合し、纏向石塚古墳、勝山古墳、矢塚古墳、東田大塚古墳、三輪そめん山本(休憩及び昼食)、箸墓古墳(倭迹迹日百襲媛命陵)、ホケノ山古墳、茅原大墓古墳、弁天社古墳、狐塚古墳、桜井市立埋蔵文化財センター(休憩及び展示見学)、大神神社というコースを回りました。

纏向石塚古墳から箸墓古墳(卑弥呼の墓という説もあります)がある地域は、一つの説として、纏向遺跡を中心とした古墳時代初期の都市が存在した、と云われている地域です。その後、古墳時代中期の茅原大墓古墳、同後期の弁天社古墳、狐塚古墳と続きます。狐塚古墳は横穴式石室が露出していますが、その規模は飛鳥の石舞台古墳に次ぐものです。大神神社は大神主大神祭神として、古事記・日本書紀にも記される由緒ある神社で、三輪山やその周辺において古墳時代の祭祀遺跡が数多く見つかっています。

今回は、巻向あるいは柳本から天理方面へ古墳を中心とした遺跡を回りながら山辺の道を歩く予定です。皆さんの参加をお待ちしています。



纏向石塚古墳の前で

平野に伝統工芸を見て歩き

石丸 健子

この企画を立てた時ははまだ桜の花が散りかけた、肌寒い頃だった。梅雨入りし、大雨情報のなか、6月22日(日)に会員約60名が地下鉄平野駅に集合。20名ずつ3班に分かれ、ボランティアガイド4名の誘導を受けながらの工房、工場、遺跡巡りと心弾ませて出発。

まずはtonbo工房へ。とんぼ(蜻蛉)玉はガラスの丸い玉の表面に異なった色ガラスを象嵌して飾ったもの。ことに小さな丸い文様が特徴的で、トンボの複眼に似ているところからそう呼ばれたものとみられる。また、赤や黄・青などの斜線による色文様が飾ったものは「雁木玉」と呼ばれる。とんぼ玉は中国では洛陽や長沙など戦国時代の遺跡から出土しているが、日本では古墳時代後期にみられ、東京の馬場遺跡ではガラス玉をつくる鋳型が発見されている。色とりどりのガラスがバーナーの火によって芸術作品に仕上げられていくさまを、皆、真剣な眼差しで眺めていた。

次の訪問地は自転車屋さん博物館。創業昭和28年「スポーツ車の店 田川」は300種にのぼる変り種自転車を手作りすることで有名で、アンティークサイクルや各国のミニモデルも並んでいる。店主いわく、生憎の雨模様で、お天気が良ければ日本一の大きな車体の自転車も見てもらえたのに、ということで、今は福祉に関する車を作っているそうだ。

続けて、銀引きの相良製鏡所にまわる。鏡を人生のなかで利用したことのない人はいないのでは。古くは呪術的、祭祀的性格をもっており、古墳や遺跡から出土している。銀引きとは、銀の還元反応を利用してガラスの表面に銀膜を形成するもので、実際にその作業の様子が見学できた。当主の手際よい作業でガラスが鏡面になっていく様子は驚きだった。

大雨になるかと心配していたが、その後も予定どおり史跡めぐり、何とか無事終了した。

梅雨明けに始まる鎮守の夏祭り

「平野いろはかるた」より



tonbo工房でのとんぼ玉づくり実演(写真:内田恵子さん)

連載

「浪花百景」～八軒屋～

第8回

千倉 康由

大阪市中央区天満橋京町

大川(淀川)に架かる天神橋と天満橋の中間の南岸に位置する八軒屋は、古代には遣隋使、遣唐使の船が入港したといわれる難波津があったとされ、海外に開かれた国際交流の拠点でした。



中世には、「熊野詣」の熊野街道の始発点として、「蟻の熊野詣」と称されるほど埋め尽くす人びらで、昼夜を問わず賑わっていました。近世には京と大阪を結ぶ水上交通の拠点となり、伏見と八軒屋の間は三十石船が定期便として運行され、「東海道中膝栗毛」の弥次喜多もこの八軒屋浜に上陸しているといわれています。

八軒屋浜は、今年、リニューアルされ京阪電車の天満橋駅の改札口とエントランスで直結し、電車から船へ船から電車へと水陸交通のターミナルとして、大阪の新しい観光スポットとして脚光を浴びています。



好評開催中!

特別展 大阪府・大阪市指定文化財展 **—大阪の祈りさまざまな美と形—**

現在、大阪歴史博物館では、大阪府指定文化財と大阪市指定文化財に指定された作品のなかから「祈り」にスポットをあて、仏像やキリスト像、絵画や工芸品などを展示しています。また平成18年度・19年度に大阪市が指定した文化財もお披露目しています。そのなかには人気の佐伯祐三の作品も含まれます。この機会にみなさんの身近にある文化財を振り返ってみませんか。

会 期/9月1日(月)まで開催中 火曜日休館(祝日の場合は翌日)

開館時間/9時～17時(金曜は20時) 入場は閉館の30分前まで

入 館 料/大人600円、高大生400円 中学生以下、大阪市内在住の満65歳以上の方は無料(要証明)

※友の会会員は会員証提示で会期中1回観覧できます。会員証を忘れずに。

編集 後記

夏本巻となりました。暑い(熱い?)目が眩いていますが、いかがお過ごしでしょうか。歴友11号が完成しましたので、お届けします。執筆していただいた参加記を拝見していると、皆さんの関心の広さが知られます。9月の篤姫ゆかりの地を訪ねるツアーはもうお申し込みいただきましたでしょうか?鹿児島は今まさに注目度ナンバー1の観光地ですが、今回のツアーは篤姫ゆかりの地はもちろん、縄文時代の遺跡や知覧の特攻記念館も見学する充実の企画です。ぜひお知り合いの方も誘いあわせのうえ、ご参加ください。